

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
山脇美術専門学校		昭和51年6月1日		川上 信昭		〒 102-0074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人山脇服飾美術学院		昭和22年11月17日		清水 カツ子		〒 102-0074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
文化・教養	美術専門課程	ビジュアルデザイン科	平成29(2017)年度	-	令和 5(2023)年度																															
学科の目的	グラフィックデザインやWEBデザインなどビジュアルデザイン分野に従事しようとする者に、企業等と連携の上で専門性の高い知識及び技術・技能を修得させるとともに感性豊かな即戦力を育み社会に貢献出来る人材を輩出する事を目的とする。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	グラフィックデザインやWEBデザインの幅広い分野を学修し、Webデザイナー検定、DTP検定、ウェブ解析士などの資格取得を目指している。また学生自身が就職活動用に作品集(ポートフォリオ)を作成しており、広告代理店や印刷会社、デザイン会社への就職を目指している。中退率は3%程度で進路変更が主な理由である。																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,150 単位時間 〇〇 単位	180 単位時間 〇〇 単位	600 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	2,958 単位時間 〇〇 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																
120人	89人	0人		0%																																
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>22</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>21</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>76</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>73</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>求職活動中の者5名。卒業生のうち1名は非正規雇用(アルバイト)</p> <p>(令和 4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 広告代理店、印刷会社、デザイン事務所他。</p>								■卒業者数(C)	22	人	■就職希望者数(D)	21	人	■就職者数(E)	16	人	■地元就職者数(F)	16	人	■就職率(E/D)	76	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	73	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	22	人																																		
■就職希望者数(D)	21	人																																		
■就職者数(E)	16	人																																		
■地元就職者数(F)	16	人																																		
■就職率(E/D)	76	%																																		
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%																																		
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	73	%																																		
■進学者数	0	人																																		
■その他																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 〇〇〇〇 受審年月: 〇年〇月 評価結果を掲載したホームページURL 〇〇〇〇</p>																																			
当該学科のホームページURL	https://yamawaki.ac.jp/introduction/visual/																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,150 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>84 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>42 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,562 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>42 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>〇〇 単位</td></tr> </table>								総授業時数	3,150 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	84 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	42 単位時間	うち必修授業時数	2,562 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	42 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位	うち必修授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位
総授業時数	3,150 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	84 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	42 単位時間																																			
うち必修授業時数	2,562 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	42 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																			
総授業時数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位																																			
うち必修授業時数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>3人</td> </tr> </table>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人		3人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																			
計	4人																																			
	3人																																			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は建学の理念である「美と創造の精神」の完成を目指し、豊かな情緒と個性的な想像力を身に付けた人材を育成するための教育の実践を教育目標としている。この目標達成のために、基礎的知識・技術から専門的知識・技術まで修得し、業界の最新情報を把握し、各企業等で即戦力として活躍できる高度な知識・技術を持った実践力のある人材を育成するための教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は学校長のもとに設置し、本校の教育課程や職業実践及び企業との連携等について諮り、意見・要望等については教務課を担当部署として検討し、これら意見・要望等および検討結果は教務課長と学科長が調整・協議したのち、学校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山田 祐照	一般社団法人日本空間デザイン協会 理事	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	①
田崎 冬樹	横浜美術大学美術学部美術デザイン学科 准教授	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	②
高橋 夏奈	株式会社アダストリア	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
左 知子	HASAS	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
樋口 誠	株式会社ネオタイド建築計画	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
相庭 聡	株式会社ケイ・ウノ	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
臼井 康祐	株式会社スーパーギルド	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
川上 信昭	山脇美術専門学校 学校長(全体会委員長)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
中沢 しのぶ	同 ビジュアルデザイン科 科長(分科会委員長)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
篠原 一郎	同 教務課 課長(ビジュアルデザイン科 講師)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
田中 晶子	同 教務課 専任(ビジュアルデザイン科 助手)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月2日 15:00～16:50

第2回 令和5年3月3日 15:00～17:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回の委員会では、「科の取り組みや状況(成果物の視察)」「業界動向」などを踏まえて、現場のニーズを考慮した実践的な意見交換が行われた。特に就職指導や就職支援プログラム・就業後の様子についての活発な意見交換があった。編成委員会で得た意見を科内へフィードバックし、次年度シラバスや授業運営に反映をしている。具体例として、①Web関連の授業内容を強化しながらも紙媒体の基本知識の習得を維持。現場と学生のニーズを踏まえて、Webと紙媒体のバランスを検討。②デザイン現場の環境や雇用形態の多様性を伝える対策として、「卒業生懇談会」について現場で活躍している卒業生の選出の工夫と、「企業との連携授業」について後期授業と次年度計画に可能な範囲から組み込みみんで増幅していく。

第2回の委員会では、「連携授業の取り組みと今後の連携授業」「企業の求める人材」「シラバスの改善点」などについて意見交換をした。

具体的な協議や意見として、①前会議で意見があった紙媒体(ポスター等)のデータ編集など基本知識の増強策として、株式会社グラフィック(印刷会社)に入稿データの作り方についてオンライン講座を実施してポスターの入稿に活かし、来年度も印刷工場の見学予定との報告があった。②本校本科はデザイン会社など実際の現場で活躍されている非常勤講師による実技・演習の授業が中心となっているので、企業連携を組み込むことが難しい。取り組みやすい例として、「学校としてイベントにブースを出展」、「画材関連の企業との連携」があげられた。今後の懸案事項とする。③Web業界のニーズが増えているが、経験者の募集が多く新卒者は厳しい状況。④学生の弱点としてコミュニケーション力や能動的に動くことが足りない傾向がある。他校の例として、キャリア関連のプログラムを充実させたり、ボランティア活動を授業単位としている。次年度のシラバスでは自分の作品についての言語化やスケジュール管理の指導などを充実させていきたい。⑤能動的な取材活動の促進として、より身近なスマートフォンの撮影技術を教える授業の必要性があげられた。現状ではスマートフォンで撮影をする授業はないので、今後検討していく。

その後、集大成の学生作品の視察を行い、具体的な講評や工夫・改善案等をいただいている。改善案として①B1ポスター「JAPAN」では、最初から最後までほぼスマートフォンやタブレットで制作する学生が出てきた。実際のスケール感を体感しながら制作する工夫が必要。②B1ポスター「JAPAN」は、課題内容を踏まえて、海外の学校と実際に作品のやり取りができないかどうか。③卒業制作では、バリエーションがあり完成度の高いものも多く、3年間の課題内容が充実していることがうかがえた。ブランディングだけに留まらずつくり込んでいる作品が多いことが特徴的。スケール感が控えめなものも多くもったいない。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業教育に係る連携授業の実施に関する内規」に基づき、関連分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲の醸成と、専門分野の実務に必要な知識、技術及び技能の修得又は向上に資する教育等を内容とする。
デザインに関する実践的な授業内容の改善・工夫のために、授業における作品制作の課題設定やプレゼンテーションを行うにあたり、教育内容に関連するノウハウ等の提供などの協力が得られる企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「職業教育に係る連携協定書」に基づき、関連分野の企業および業界団体から各専門分野の指導担当者として人材の派遣を受ける。

授業科目担当教員と企業の講師が、授業の前に事前打ち合わせを行い、講義・実技指導などの内容や、学修成果の達成度評価指標等について定める。企業の講師が作品企画の着眼点や課題の制作での専門性の高い助言や技術指導を行うなど担当教員と連携しながら授業運営を行う。企業の講師から得られた助言等を生かし、進行チェックでの完成度、テーマ及びプレゼンテーション資料の充実度・完成度、企画プレゼンテーションの発表内容などの評価項目をあらかじめ設定し、それぞれについて評価を行うこととしている。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デザイン概論2	デザインの目的やデザイナーの仕事、デザイナーの社会的役割を理解する。 ビジュアルデザインの可能性を幅広く学び、横断的に見渡す力をつける。 本科目の連携では、印刷会社の担当者とデータ入稿に関する条件確認と学生への告知。入稿後の工場からのpdf確認と校了指示。印刷後のデータ上の問題点と学生への共有。複数の紙での印刷確認、蛍光色やシルバーインクなど校内の簡易印刷ではできない通常の色校正までの貴重な経験を実践。	昭栄印刷株式会社
イラストレーション3	フリーハンドを含む様々なアナログ表現を使った実践的なイラストレーション技術を学びつつ、イラストレーションを活かしたグッズ制作を行い、自分なりの表現を習得。 画材の特性、イラストレーションの魅力を生かした、グラフィック制作を目指す。 本科目の連携では、イラストレーターとして活躍されている方から直接お話を伺い、イラストを仕事にする方法や継続する秘訣、デザイナー、イラストレーターの両方の視点からレクチャーをしていただく。	一般社団法人ごみプロジェクトイラスト

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 「山脇美術専門学校教員研修内規」に則り、教員に対し現在就いている教育職又は、将来就くことが予想される教育職に係る職務の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な教員の能力及び資質の向上を図ることを目的とする。 教員に対する研修の必要性を把握するとともに、教員の自己啓発の意欲を発揮させるように配慮し、研修計画に基づく研修を実施する。 研修の参加については、職務内容や経験年数を考慮したうえで、学校長が指示する。</p>	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
<p>研修名: 「Adobe Illustrator & Photoshop ～便利と効率と最新情報～」</p> <p>期間: 令和4年5月27日(金)</p> <p>内容: DTPデザイナー向けAdobe CCアプリケーションIllustrator、Photoshopを使用した製作効率が上がる最新情報を、デモンストレーションを交えながら具体的に学ぶ。</p>	<p>連携企業等: 株式会社Too</p> <p>対象: 全科の教職員</p>
<p>研修名: 「日本アドバイザーズ協会・日本新聞協会 2022年度共催セミナープログラム」</p> <p>期間: 令和4年11月21日(月)</p> <p>内容: 第一部 パネルディスカッション「SDGs時代のパーパスブランディングと新聞広告の役割」 パーパスブランディングの特徴を理解し、各パネリスト(企業)より具体例を紹介。 第二部 新聞社事例紹介「Z世代向けの新聞広告活用例」 日本経済新聞社、神戸新聞社より具体例を紹介。</p>	<p>連携企業等: 日本アドバイザーズ協会・日本新聞協会</p> <p>対象: ビジュアルデザイン科の教職員</p>
<p>研修名: 「パッケージデザインの学校2023」 地方企業のブランディングはパッケージが命</p> <p>期間: 令和5年3月2日(木)</p> <p>内容: 名古屋・中部エリアを中心にパッケージデザイン、企業ロゴ、広告などを手掛ける平井秀和氏より、実際に携わった老舗ブランドの具体的な事例を基に解説。</p>	<p>連携企業等: 公益社団法人日本パッケージデザイン協会</p> <p>対象: ビジュアルデザイン科の教職員</p>
② 指導力の修得・向上のための研修等	
<p>研修名: 「PSAフィードバック講習会」</p> <p>期間: 令和4年7月27日(水)</p> <p>内容: 事前にPSAパーソナリティ診断を実施。学生は、診断結果をもとに、PSAの目的を理解する。自分の個性を掴み、活かしのヒントを得る。教職員は、学生指導の精度を高めるための手がかりとして活用する。学生のやる気を高める関わり方や信頼関係を築くヒントを得る。講習後に意見交換会を行い、具体的な指導や対応方法などを教授する。</p>	<p>連携企業等: 株式会社ヒューマン・キャピタル・コンサルティング</p> <p>対象: 全教職員</p>
<p>研修名: FCEエデュケーションセミナー「『やり抜く力』を伸ばす」</p> <p>期間: 令和4年10月12日(水)</p> <p>内容: 具体的な専門学校の取り組み事例を受けて、学生の自己肯定感を高める工夫や、教員のコーチングへ取り入れるスキルを学ぶ。 「学生の非認知能力についての悩み」、「教員の指導についての悩み」の事案紹介。セルフコーチングについての説明。他校の取り組み事例などの紹介(動画視聴)</p>	<p>連携企業等: 株式会社FCEエデュケーション</p> <p>対象: 全教職員</p>

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「第86回JAAAクリエイティブ研究会2022年クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞 受賞者講演」	連携企業等:	一般社団法人 日本広告業協会
期間:	令和5年8月18日(金)	対象:	ビジュアルデザイン科の教職員
内容	日本広告業協会(Japan Advertising Agencies Association)主催の「2022年クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞」受賞者による研究会。同賞は過去一年間で最も優れたクリエイティブワークを行ったクリエイター個人を表彰する。2022年を代表するクリエイター3名から、それぞれのクリエイティブワーク・手法等、具体的な事例をふまえての解説。		
研修名:	デザイナー向けAdobeアプリケーション関連のセミナー	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和5年4月～令和6年3月の間	対象:	全教職員
内容	Adobe PhotoshopやAdobe Illustratorなど操作に関すること、作業効率上がる最新の情報提供など、具体的なデモンストレーション交えながらのセミナーなど。		
研修名:	Webデザイン関連のセミナー	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和4年4月～令和5年3月の間	対象:	ビジュアルデザイン科の教職員
内容	Webデザインに関わる、最新情報やスキルアップを図るセミナーやワークショップなど。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	PSAフィードバック講習会	連携企業等:	株式会社 ヒューマン・キャピタル・コンサルティング
期間:	令和5年7月27日(木)	対象:	全教職員
内容	事前にPSAパーソナリティ診断を実施。学生は、診断結果をもとに、PSAの目的を理解する。自分の個性を掴み、活かしのヒントを得る。教職員は、学生指導の精度を高めるための手がかりとして活用する。学生のやる気を高める関わり方や信頼関係を築くヒントを得る。講習後に意見交換会を行い、具体的な指導や対応方法などを教授する。		
研修名:	メンタルヘルスサポート、コミュニケーション、コーチング研修など	連携企業等:	各種団体や企業が主催
期間:	令和5年4月から令和6年3月の間	対象:	全教職員
内容	コミュニケーションやメンタルヘルスケアに関わる研修やセミナーに1～2回受講予定。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、学校が自己点検・自己評価を行う。実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。また卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)学校運営(3)事業計画(4)運営組織
(3)教育活動	(8)教育活動(9)教育方法・評価等
(4)学修成果	(10)成績評価・単位認定等(13)学習成果(14)資格・免許の取得率
(5)学生支援	(11)資格・免許取得の指導体制(16)学生支援(18)学生相談(19)学生生活
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生の募集と受け入れ
(8)財務	(28)財務(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関係法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献・国際交流
(11)国際交流	(36)社会貢献・地域貢献・国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者より「情報セキュリティ対策は適宜、アップロードしていくことが重要」との意見をいただき、個人情報などの情報管理を強化するため、学内サーバーへの各部署や役職ごとのアクセス権限を厳密にした。

「学外での就業体験により、学びと仕事の繋がりを理解できるカリキュラムがあると良い」との意見をいただき、企業連携授業の協定企業開拓に努め、令和4年度の13社(ビジュアルデザイン科2社、スペースデザイン科6社、ジュエリーデザイン科5社)から令和5年度はビジュアルデザイン科5社、スペースデザイン科3社、ジュエリーデザイン科1社を追加し、合計22社と企業連携協定を結び、職業実践的な授業が充実した。また、インターンシップ受け入れ企業の開拓と学内での企業説明会を増やした結果、インターンシップ参加学生が6人増加した。

「デザインが社会や地域にどのような形で貢献できるかを体感できるプログラムがあると良い」との意見をいただき、企業や団体の主催によるアンカットダイヤモンドコンテスト、ピンバッチコンテスト、大和市ポスターコンペへの出品を授業課題に取り入れるようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
久保寺健郎	九段振興組合 理事	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	地域等委員
松尾貴之	株式会社スピリッツ プロデューサー	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	企業等委員
今川清信	杜陵印刷株式会社 課長	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	企業等委員
須藤加代子	会社員	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	卒業生等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/07gakkokankeishahyoka.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教職員による学校の理念・目標に照らして自らの教育活動を評価した「自己評価」、及び「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に対応した項目を公開することにより、企業等の学校関係者から有益な助言を得ることで教育の質的な向上を図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1, 学校の概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	2, 教育方針と各学科の教育
(3) 教職員	3, 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	4, キャリア教育と就職支援、職業実践教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	5, さまざまな教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	6, 学生生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	7, 学費と経済的な支援
(8) 学校の財務	8, 財務情報
(9) 学校評価	9, 学校評価
(10) 国際連携の状況	〇〇〇〇〇
(11) その他	〇〇〇〇〇

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/yamawaki-basic-information.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			基礎デッサン	主に鉛筆と水溶性絵の具を使用し、モチーフを描写する。課題ごとに講評会を行い、自分の描いたものを客観的に判断し、クラスメイトの作品を見ることにより表現の幅を知る。	1 通	84				○	○			○	
2	○			デザイン技法 1A	アナログ表現に必要な道具の使い方、色彩イメージや配色形式などの知識・技術を体得する。課題ごとに講評会を行い、自分の描いたものを客観的に判断し、クラスメイトの作品を見ることで客観的な視点を身に付ける。	1 通	84				○	○			○	
3	○			デザイン技法 1B	主に紙を用いた立体造形の基礎演習。 写真撮影の基礎に関する講義と演習及び立体作品の撮影。	1 通	84				○	○			○	
4	○			デザイン概論 1	ディスカッションや美術館見学を交えながら、美術とデザインの歴史、デザインの役割などについて学びます。デザインの目的やデザイナーの仕事、デザイナーの社会的役割を理解します。	1 通	84			○			○		○	
5	○			イラストレーション1	色彩表現や平面表現方法を、実験を繰り返しながら習得します。発創力を身につけ、表現する方法を考えます。様々な画材・技法を試し、表現の幅を広げます。発創力を身につけ、伝わる表現を考えます	1 通	84				○	○			○	
6	○			企画発想演習	リサーチ、観察、メモ、ブレインダンプ、言語化、カンパ制作、プレゼンテーションなど企画発想に必要な考え方と方法を体験します。目標、キーワード、コンセプトを設定し、デザインアイデアを様々展開していきます。一連のデザイン企画立案のプロセスを学びます。	1 通	84				○	○			○	
7	○			P C 演習 A	Illustrator・photoshopを使ったデザインを学びます	1 通	84			△	○		○		○	
8	○			P C 演習 B	Photoshopの基本操作、基本機能、画像加工・補正技術の紹介とその演習をします。	1 通	84			△	○		○		○	
9	○			グラフィック デザイン1	平面での造形や画面構成などビジュアルコミュニケーションの基礎技術を学びます。	1 通	84			△		○	○		○	
10	○			特別講義・ HR・見学1	オリエンテーション、ビジュアルデザインに関連する企画展等の見学レポートの作成、他科目授業課題の作成、また、就職活動（ポートフォリオ作成等）フォローを行います。	1 通	84				△	○	○	○	○	
11	○			就職講座1	自分自身の適正に合った企業への就職するために、基本的なビジネススキルの習得と、業界職種の範囲の理解を行います。	1 通	27			○	△		○		○	
12	○			進級制作1	1年次で学んだスキル（イラストレーション、写真、タイポグラフィ、レイアウトなど）の集大成として、紙一枚のデザイン（B1ポスター）を企画デザインし、入稿まで行います。	1 後	123					○	○		○	

13	○		課外授業	入学式・ガイダンス、研修旅行、テーブルマナー（、大掃除、学生作品展、山脇祭、芸術鑑賞、教養講座、東京都専門学校アート&デザイン展、卒業・進級制作展など	1 通	60			○		○	○	○							
14		○	イラストレーション2A	身の回りのもの、人々、日常生活での出来事のかたちにする訓練をします。テーマに沿った表現方法を追求し、尚且つ、共感を得るイラストレーションを制作する。用途のあるものにイラストレーションを組み込みます。	2 前	42			△		○	○						○		
15		○	イラストレーション2B	身の回りのもの、人々、日常生活での出来事のかたちにする訓練。テーマに沿った表現方法を追求し、尚且つ、共感を得るイラストレーションを制作する。用途のあるものにイラストレーションを組み込むイメージができる。	2 後	42			△		○	○						○		
16		○	立体イラストレーションA	任意の動物・昆虫を一つ選び、生活から見られる様々な素材を使い制作します。制作したものを撮影し、任意で想定した展示会のDMを制作します。	2 後	42					○	○						○		
17		○	立体イラストレーションB	任意のフィギュアと自分をモチーフとし組み合わせ、立体構成をします。制作したものを任意のイラストレーターを選び、その技法、色、特徴を模倣しながら描きます。	2 後	42					○	○							○	
18		○	ブックデザイン	本の成り立ち・製本や編集など一連の知識とともに、ブックカバー（装丁）を中心としたデザイン展開の学習課題を通じて、ブックデザインの可能性と表現方法を学びます。	2 後	42			△		○	○							○	
19		○	タイポグラフィ	書籍、広告など情報を伝達するものにおいて、そのメインとなる手段とは文字による伝達です。その文字における知識、文字を組む事、そして文字組を主体とした紙面設計を論理と実践の両面から学びます。	2 前	42			△		○		○						○	
20		○	クリエイティブプランニング	独自のデザインコンセプト（視点、目的）を、どの様なターゲット（いつ、どこで、誰にむけて）どの様に伝えるか（表現方法、デザイン、アイデア）を検討することが必要です。またそれらを伝えるために、様々な手法でデザインプラン（企画）としてまとめ、自分の考えを伝えていく必要があります。この授業ではその一連を考察し、学びます。	2 後	42					○	○							○	
21		○	ブランディングデザイン	ブランディングデザインの考え方と流れを理解する。	2 前	42			○		△		○						○	
22	○		デザイン技法2	製図、紙工作、造本など、様々な表現方法や技術を広く経験して体得します。動画制作の基礎的な知識と方法を学び、Web制作におけるデザイン素材作りのスキルを習得します。	2 通	84			△		○	○							○	
23	○		Webデザイン基礎	Adobe Portfolioを使用してWebサイトの基本を学習します。HTML、CSS及びWebデザインの基礎を学習します。	2 通	84			△		○	○								○
24	○		課題研究	ポートフォリオ作成と進級制作（Webポートフォリオ）の下準備をします。就職活動に向けての準備を行います。コミュニケーション検定希望者は対策を行います。	2 後	42					○	○							○	
25	○		デザイン概論2	デザインの目的やデザイナーの仕事、デザイナーの社会的役割を理解します。	2 前	42					○		○						○	
26	○		パッケージグラフィック	清涼飲料水のパッケージとボックスティッシュのパッケージを制作します。リサーチ、分析によって商品に必要な要素をパッケージを通して学びます。	2 通	84			△		○		○							○
27	○		エディトリアルデザイン	雑誌などのページものの誌面デザインを、編集的な観点で組み立てていく考え方を学びます。Adobe InDesignの使い方の習得します。	2 通	84			△		○	○								○

43	○		研究制作3	授業課題、コンペ参加など、各自テーマを定め制作を行います。就職活動準備やポートフォリオ作成、また見学や授業のフォローなども行います。	3 通	210			△	○	○	○		
44	○		卒業制作企画	3年間の学習の集大成として各自テーマを定め、自分なりの表現やスタイルを追求し制作・プレゼンテーションを行います。コンセプトをまとめ、企画をプレゼンテーションし、実制作の準備を行います。	3 後	42				○	○		○	
45	○		特別講義・HR・見学3・就職講座3	オリエンテーション、ビジュアルデザインに関連する企画展等の見学～レポートの作成、他科目授業課題の作成、また、就職活動（ポートフォリオ作成等）フォローを行います。	3 通	84			△	○	○	○		○
46	○		卒業制作	3年間の学習の集大成として各自テーマを定め、自分なりの表現やスタイルを追求し、制作・プレゼンテーションを行います。	3 後	150				○	○			○
47	○		課外授業	入学式・ガイダンス、研修旅行、テーブルマナー（、大掃除、学生作品展、山脇祭、芸術鑑賞、教養講座、東京都専門学校アート&デザイン展、卒業・進級制作展など	3 通	60			○		○	○	○	
合計					47	科目	3738 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 出席率が80%以上であること、課題の提出が100%であること、学年の全科目の成績が60点以上であること、学費等納付金が完済であること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 1年生は必修授業1050時間、2年生は必修授業882時間・選択授業より4科目168時間、3年生は必修授業630時間・選択授業の選択1(イラストレーション3・写真表現・広告パッケージ・セールスプロモーション・Webデザイン応用・エディトリアルデザイン)より3科目・選択2(アートディレクション・Webデザイン)より1科目の420時間を履修する。		1 学期の授業期間	18 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。